

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	建築・デザイン学科						
科目名	環境とデザイン						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	選択必修科目(建築工学コース)／選択必修科目(建築コース)／選択必修科目(デザインコース)						
担当者	小池 博						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のヴァナキュラーな住居建築を探り、その独特な構造と意匠を記述できる。(B4) ・環境・建築・空間・道具に関わる人間中心の環境デザインを記述できる。(B4) ・ユニバーサルデザインの思想を記述できる。(B4,A5) ・景観の保全と再生のデザインを記述できる。(B4,A5) 						
日程と内容	<p>4月8日 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法</p> <p>4月15日 風土と建築1／アフリカ・ヨーロッパ・中南米のヴァナキュラー建築</p> <p>4月22日 風土と建築2／アジア・日本のヴァナキュラー建築 レポート課題</p> <p>4月29日 日本の都市空間を読む1／要素のデザイン</p> <p>5月13日 日本の都市空間を読む2／集落のデザイン</p> <p>5月20日 日本の都市空間を読む3／都市構成の原理 レポート課題</p> <p>5月27日 広場のデザイン／人の関係としての屋外空間</p> <p>6月3日 庭園のデザイン／景観の造形としての庭園</p> <p>6月10日 構築物の景観デザイン／景観要素としての構築物と工学技術</p> <p>6月17日 ユニバーサルデザイン／バリアフリーとノーマライゼーション レポート課題</p> <p>6月24日 景観の保全と再生1／環境デザインとまちづくり</p> <p>7月1日 景観の保全と再生2／文化遺産とまちづくり</p> <p>7月8日 都市と照明デザイン／建築と都市の照明、景観の照明 レポート課題</p> <p>7月15日 水辺空間のデザイン／親水空間と生活資源としての水辺空間</p> <p>7月22日 授業のまとめとレポート返却、定期試験に向けた総合解説</p> <p>7月29日 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%			
	臨時試験	0%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%			
	課題	40%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のヴァナキュラーな住居建築を探り、その独特な構造と意匠を記述できる。(B4):達成した ・環境・建築・空間・道具に関わる人間中心の環境デザインを記述できる。(B4):達成した ・ユニバーサルデザインの思想を記述できる。(B4,A5):達成した ・景観の保全と再生のデザインを記述できる。(B4,A5):達成した 						
反省点	今年度は昨年度の反省を踏まえ、すべての課題を出題した翌週提出とした。そのせいか、すべての課題において大きな差は見られなかった。また、昨年度と比較し、全体的に極めて受講態度がよかった。定期試験受験者88名のうち、87名が合格した。一方で不合格者のほとんどが課題を提出していない。授業に出ているながらも課題を提出しておらず、試験も受験しなかった学生が数名いたのが気になった。						
来年度の計画	昨年度の公開授業および授業評価アンケートの意見を踏まえ、今年度は動画を取り入れたり、PPTにアニメーションを取り入れたり、動きのある講義を取り入れたが、来年度も引き続き行っていきたい。また、可能性は少ないが、共同作業ができるような課題についても検討したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>自由意見について昨年度と比較するとネガティブコメントは減少した。特に、授業中の私語に対するクレームが減った。昨年と比べ、より早く私語に対して対応はしていたが、それ以上に今年度の学生自体がもともと私語が少ないことに起因していると思われる。いずれにせよ、私語に対するクレームは存在するので対応していきたい。また、昨年度よりも動画を増やしたが、まだまだ少ないとの意見も見られた。今後も積極的に動画を取り入れていきたい。</p> <p>全体的に対価評価を入れておきながら、教員評価だけが7点になっているものが少なく、そのほとんどが理由欄にポジティブな理由しか挙げていないため、なにを改善してよいのか判断し難い。7点はよい評価と考えてよい。</p>						
履修登録者数	95名	定期試験受験者数	88名	合格者数	87名	合格率	99%